

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームいきいき ハマナス	評価実施年月日	平成19年9月1日～9月30日
評価実施構成員氏名	星川静代、前川淳子、勝部幸子、宇井久、村田真美子、松原靖江、日當民子、高瀬淳也、工藤元子		
記録者氏名	星川静代	記録年月日	平成19年9月30日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「いきいき」独自のホーム理念を持ち、その中で「その人らしく生きる安心した暮らし」を唱っており、常に職員が意識出来る様にスタッフルームや目の届くところに掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ホーム理念をスタッフルームに掲示すると共に、毎朝の申し送りの際に復唱することで理念の共有をはかり実践に取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域やご家族に季刊の便りを発行すると共に、ホームの行事にも参加してもらい理念の浸透に努めている。地域の方達や、ご家族には推進会議にも参加して頂いている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の商店・町内会役員などとは、なじみの関係が出来ているが、一般住民とは出来ていない。	○ 町内会役員のかたを通じて輪を広げて行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	管理者は事業所として、町内自治会等に参加している。又、入居者さんが盆踊りに参加したり町内子供神輿の立ち寄りはあるが、その他の活動への参加は十分ではない。	
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	なかなか取り組むことは出来ていない。	○ 介護教室など、地域に貢献できることを考え実行に向けて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	改善にとりこんでいる。ハード面では毎年同じ改善点が挙げられている(水周りなど)が、直ぐに改善でき難い面もある。	○	改善出来る様要望していく。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域の方たちと入居者、家族も接する機会となっており、また地域の方に当事業所のサービスと暮らしている入居者を理解して頂く機会となっているが、職員が周知できていない。	○	今後は全職員が意識してみていくようにする。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	研修や講演会などに参加する機会を設け、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	一部の職員しか制度に対する理解はできていない。必要と思われるご家族には活用出来る様支援してきたが、全ての家族には出来ていない。	○	職員の勉強会や家族会を通して、学ぶ機会を持ちたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	防止に努めている。	○	更に勉強会等を通して意識を高めていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分に説明し、理解・納得を得るよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情を受け入れる為の箱やノートを設置し、機会を設け、運営に反映させている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>事業所より、毎月通信を出し情報提供している。金銭出納帳のコピー、領収書の送付、ご家族の来訪時には、個々の報告をしている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情を受け入れる為の箱やノートを設置し、機会を設け、運営に反映させている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>面談を行ない、意見を聞く機会を設けている。又、ユニット会議にも参加し、意見や提案を聞いている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者の状況の変化に合わせた勤務調整はきちんとされている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>一人ひとりに合わせて入居者へは口頭で説明しており、ダメージを防ぐよう配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修の機会は多く持っているが内部の勉強会の機会が少ない。	○	新人の勉強会を再開していき、スキルアップを図る。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他のグループホーム訪問を行うなどして交流に努めているが、最近勉強会を共に行うことはない。	○	合同の勉強会も行っていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	ユニットから離れた場所に休憩室を設け、ストレスの軽減を図っている。	○	限られたスタッフしか休憩できていない部分があるので、全員が休憩室を利用できるような環境づくりを再検討していく。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	外部研修の参加、他施設の見学が出来る機会を持ち、向上心がもてるよう取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居時にご家族等に記入をしていただいたバックグラウンドシート等を基に、本人の話やコミュニケーションをもち情報収集に努めている。本人の課題を明らかにし、希望とされていることをケアプランにあげ実行している。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	いつでも相談できるようにし、家族が困っていること、不安なことなどを聴き、受け止めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族が必要としている支援を見極め、対応している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学や体験をしていただき、本人や家族が納得してサービスを利用していただくよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	長年の経験からの暮らしの知識や知恵を借りたり、しきたり慣習を教えていただくなど、職員と入居者さんは、支えあう関係である。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、本人を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者さんの、健康や日々の暮らし・言動など都度お知らせし、情報を共有し共に支えていく努力をしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人とご家族が良い関係を築いていけるよう、本人に家族の思いを伝えたり、ご家族には本人の思いを伝えるなど、職員は支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの理髪店や美容院に通ってもらうなど、地域での関わりや、馴染みの人との関係を大切にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係を把握し、食事の席などで工夫している。必要以上に介入したりせずに見守り、状況を見て仲裁に入っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	大切にしたいと思っているが、他の施設への転居の為か、関わりのある入居者さんはいなかった。	○	必要としているときは断ち切らないような関わりをもっていく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向を把握し、実行している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	バックグラウンドを把握すると共に、添書等でこれまでのサービス利用経過を把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの暮らしぶりや、変化等を具体的に記録し、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	スタッフ間で話し合い、ご家族に提示し、意見や希望を求めている。本人への提示は、コミュニケーションが取れない方も多く、難しい。	○	本人への提示は難しいところだが、家族や必要な関係者と話し合い意見やアイデアを出し、反映していけるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	カンファレンスを重ね、見直しを必要に応じて行っており、現状に即した計画を作成している。	○	簡潔な計画を作成していきたい。ポイントを絞り、より有効なプランの作成に努めたい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に日々記入すると共に、個別のカンファ記録を作り情報の共有を図ると共に、日々のケアや介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や、家族の状況について、臨機応変に応じている。	○	多機能性ということで、柔軟な支援ができるように、ホームの特色をいかにせるように検討していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の協力を得ながら支援している。(民生委員・・・推進会議への参加、行事への地域ボランティアの参加、消防・・・避難訓練等)		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービス事業と常に情報交換を行い、いつでも協力していただけるよう連携を図っている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議の際に、地域包括支援センターの職員に参加していただいているが、権利擁護や、長期的なケアマネジメント等については話し合う機会がない。	○	地域包括支援センターとの協働する機会を設けていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>43 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>毎週の往診、隔週の往診カンファを通して、医師・看護師と相談しながら支援している。(毎週2~3度医師・看護師と顔を合わす機会がある。又電話でも気軽に相談できる)</p>		
<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>44 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症に詳しい医師の、毎週の往診や年二回の検診により診断・治療を受けている。</p>		
<p>○看護職との協働</p> <p>45 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>事業所として看護師の確保はしていないが、往診に同行の看護師に相談しながら、健康管理・医療活用の支援をしている。又、電話でも気軽に相談できている。ホーム行事にも参加していただき、入居者の暮らしぶりも見ていただいている。</p>		
<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>46 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院した場合には、病院と情報交換し、必要以上入院を長引かせないように早期退院に努めている。</p>		
<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>47 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>かかりつけ医と共に、家族と早い段階に話し合い、方針を話し合っている。</p>		
<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>48 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>終末期の家族の気持ちの変化にも対応できる準備も必要と思われるが、医師へ都度相談して指示や助言をいただいている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>出来るだけ、ダメージを最小限にするよう努めたい。住み替えのケースはあまりない。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個々に合わせた言葉かけや本人や他の入居者の不快とならないよう、さりげない対応に心がけている。記録はイニシャルを使いありのままを記録している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人の思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常の中で選択肢を多く設けたりして本人の思いや希望を表せるよう働きかけるよう努力している。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>出来る限り希望に沿うよう支援しているが待っていただいたりする事もある。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>おしゃれできるよう支援している。職員は洋服の組み合わせを考えるなど身だしなみに注意を払っている。馴染みの店にいきたい希望も受け入れている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>可能な限り買い物など一緒に行き、好みの食物を買ったり、一人ひとりに合った調理方法や盛り付けに工夫している。また盛り付け・配膳・後片付けなど共に行い、本人の持てる力を発揮できるようサポートしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	状況に合わせて支援している。ご家族の協力も得ている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々に合わせた排泄支援を心がけ、支援している。又、入居者が自力で出来ないことはさりげなくサポートし、プライバシーに配慮し声のかけ方などに注意を払っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日を決めずに毎日数人ずつ入浴を楽しんでもらっている。スタッフ側の都合で時間帯を決めざるを得ない状況があるが、個々にあわせタイミングを見て声がけしている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの睡眠パターンをほぼ把握しており、体調や習慣に合わせて休息や睡眠が取れるよう支援している。日中の活動を増すなど、安眠策をとっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食器拭き、ごみ捨て、散歩、買い物、外出支援等で役割・楽しみ・気晴らしの支援をしている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自分で管理、使用できる方に関しては本人にまかせ、適切に使えるよう見守っている。高額な品物に関しては、ご家族と相談し購入している。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	一人ひとりの希望に沿って散歩や買い物など支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	公園に出かけ外気浴をしたり、ホテルや食堂での食事など、全員であるいは個別でと、スタッフと入居者さんは出掛けている。一部のご家族はホームの一泊旅行に参加して下さったり、外食に出かけてくださるが、ご家族と外出できる利用者さんは限られている。	○	ご家族へ協力の働きかけをしていく。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時には電話できることを伝えている。家族からの手紙も本人へ渡し、必要に応じて音読するなどプライバシーに配慮しながら支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や本人となじみの方々の訪問を歓迎し、心地よく過ごしていただけるよう、自室や食堂、リビング等で過ごせるよう工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束しないケアに取り組んでいる。しかし「介護保険法指定基準における禁止行為となる具体的な行為」については全ての職員には周知されていない。	○	研修や勉強会に参加していけるようにしていく。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	防犯上、夜間のみ施錠しているが、他はかけることはない。		
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	自立されている方、そうでない方を考慮し、プライバシーを守りながら安全に注意している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	居室においては、その人に合わせ危険な物は整理撤去している。共用部においても、状況に応じて危険をのぞくよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	朝のカンファレンスで話し合い、知識を出し合って、取り組んでいる。又勉強会などを行い、事故防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作り、周知するようにしている。	○	応急手当の勉強会は少し間が空いているので、行っていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練を消防署の協力を得て行っている。地域の方々にも、運営推進会議等を通して協力をお願いしている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族来訪時等に現状を報告し、起こりうるリスクを話し同意を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	気づいた変化は直ぐに共有し、医師や看護師に相談対応している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全ての理解は難しいが、薬局からの情報を参考にしながら確認に努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維質の多い野菜も食すよう心がけると共に、排泄状況をチェックし、心地良く過ごせるよう取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	スタッフ介助の義歯の入居者さんについては、きちんと行っているが、できていない入居者さんもいる。	○	自尊心を傷付けないう気配りしながら、促していきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日30品目以上の食品摂取に心がけ、栄養バランスを考え調理している。栄養は十分取れていると思うが水分は日によって、体調によって摂れていない時もある。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は毎年、入居者およびスタッフ全員が受けている。予防マニュアルを作成、往診を受けている病院と連絡を取り、都度対応している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理用まな板・包丁は毎晩消毒、布巾も毎回調理後に漂白して衛生管理に注意している。調理した食物や、残り物は都度直ぐに処分して食中毒を起こさないよう心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	建物周囲ベンチを設置、花壇を作ったり、玄関に表札をかけるなど雰囲気づくりをし、親しみやすく気軽に立ち寄れるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者さんの安全を考えながら、草木の鉢植えをおいたり金魚を飼うなど生活感や季節感を感じるよう工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	パーソナルスペースを設けたり、移動可能な藤椅子を置くなどして、自由に過ごせる居場所を確保している。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	必要に応じて家族と調整しながら工夫している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気をおこなったり、温度・湿度にも注意している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	身体機能のレベルに合わせ、浴室・トイレに手すりをつけるなど工夫している。又個々の入居者さんに合わせた食卓・イスを提供し、安全に動作出来る様工夫している。	○	水まわり(特に洗濯槽)を入居者さんが使い易いよう改善したい
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	何が混乱を招くのか、毎朝のカンファで検討している。又、トイレの表示や、居室の暖簾など見分けやすい工夫をしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花壇や畑を作り園芸・菜園作りを楽しんだり、テントを張ったりベンチを置く等、くつろげる環境づくりをしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ③

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	③
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 入居者さん一人ひとりに合わせたケアに取り組んでいる。入居者さんの変化を察知し、医師・看護師に相談、素早く対応している。コミュニケーションのとり難い方の思いをうけとめるよう努めている。スタッフ間の情報の共有に努めている。